

マッピング法・マンダラート法の活用その3

2つの技法の問題点と可能性

(1) マッピング法の問題点

マッピング法の問題点として、マッピング法を選択した生徒の中には、マッピングが複雑になり、どう整理してよいか混乱してしまった生徒もいたことが挙げられます。

(2) 2つの技法を発展、定着させていくための提案

【提案1】

1年生段階でマッピング法、マンダラート法の活用の基本を学習し、2年生で両技法の併用または選択による活用、3年生で両技法の変形または他技法の活用へと発展させる。

【提案2】

マッピング法は題材探し、主題・要旨の仮決定の段階で有効である。マンダラート法は、取材・構成の段階でより効力を発揮する。それぞれを学習段階によって使い分けることにより、前記の問題点を解消できると考える。

学び方を身につけるために

学び方を身につけるためには、繰り返し学習が必要です。中学校では、これは大事だから、この先役に立つからと言っても、繰り返し学習は、なかなか成立しません。学習の実感がなければ、行動しないのです。学び方を知り有効だと思ったとき、それを身につけようとするのです。

「書くこと」に関しては、これからますます説明、記録、手編み、感想、意見、報告、論説文などを書くことができる力を養っていかなければなりません。そのときにどのくらい工夫された効果的な手法を打ち出せるかです。

授業者の引き出しの一つに

マッピング法やマンダラート法に限らず、手だてや手法ありき、それらが先、それらを取り入れることが前提ということがあります。そうすると、ねらいや目的と手段が逆転してしまいます。手段そのものがねらいとなってしまいます。

手段は、あくまでもねらいや目的に迫るためのものです。授業者として、様々な手法を身に付け、ここでは、こういうねらいだから、この手法がよいといった具合に、自分の引き出しから出せる状態にしておくのが理想です。

マッピング法もマンダラート法も、国語の授業に限らず、様々な教科や総合的な学習の時間、学級活動において活用されています。これらの手法は、取り入れれば必ず効果が出るというものではありません。ねらいや目的、生徒の実態などから判断して活用することが重要です。

また、他にも似たような手法があります。それぞれの特長や違いを理解した上で、最適な手法を取り入れられるようにしたいものです。